

# 馬寮北方の調査

## — 第395・411次

### 1 第395次調査

調査地は平城宮西北辺に位置する佐紀集落内で、馬寮北方に位置する。調査地の隣接地での発掘調査では顕著な遺構は検出していないが、西南方で実施した第174 - 20次調査において奈良時代の東西溝を検出している。調査期間は2005年10月19日～26日、調査面積は東西7.5m、南北4mの30㎡。

幕末に建てられたという米蔵の整地土（暗褐色粘質土）を除去後、地表下約50cm、H=70.0m付近で平坦な整地面（暗灰色粘質土）を確認した。この上面で米蔵の礎石の抜取穴があるなど遺構が確認できたが、上層の整地土と同様の近世末期までの遺物を内包しており、ほぼ同時期の整地土と判断できる。そのためこれを除去し、H=69.7m付近で平坦な礫面（黒灰色砂）を検出した。

礫面には土器片や瓦片が散在し、またこれを切り込む南北溝を検出した。礫面、南北溝ともに古代の瓦片や土器片に加えて12世紀前半とみられる瓦器片を含み、遺物から時期差は認められない。礫面は田畑の床土下に施した地業である可能性もあるが、調査区が狭小であることもあり、その性格は判然としない。この他に、米蔵の礎石抜取穴の下に、地固めに打ち込んだ4本のマツ杭が残存していた。

西端では黒灰色砂の状況および下層を確認するため断ち割り調査をおこなった。その結果、黒灰色砂は10cm程度の厚さで、その下は青灰色砂の地山であることを確認

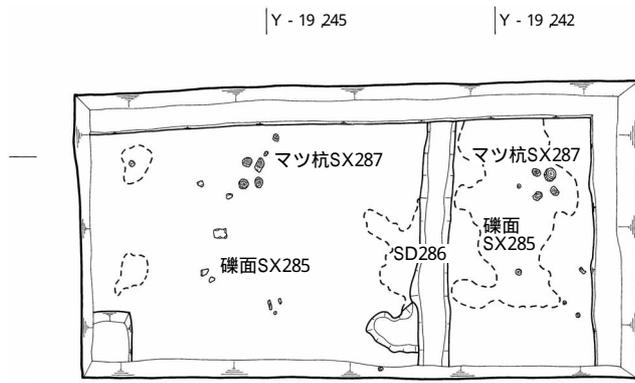


図173 第395次調査遺構平面図 1:100

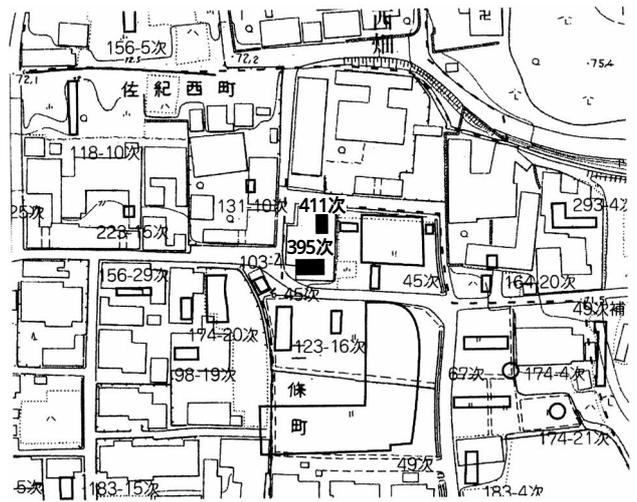


図172 第395次・第411次調査区位置図 1:2000

した。黒灰色砂と青灰色砂の間には若干の凹凸があるが、黒灰色砂上面に遺構は確認していない。

### 2 第411次調査

調査地は佐紀集落内、佐紀西町公民館（第395次の調査地）の敷地の北半で、公民館の倉庫建設にともなう事前調査である。調査期間は2006年8月7日～9日、調査面積は東西3m、南北5mの15㎡。

表土および旧耕土を除去した現地地表下約90cmの標高69.7m付近で一面に広がる礫面を検出。礫面には奈良時代の瓦片から鎌倉時代の瓦器片までを含む遺物が散在する。礫面を切り込む南北溝および東西溝があるが、包含する遺物に礫面との時期差は認められない。

礫面の upper には江戸時代の陶磁器片などを含む耕土、下は白灰砂の地山となる。礫面の性格は判然としないが、第395次調査の検出状況とあわせて考えれば、床土下に施した地業である可能性が高い。この他に江戸時代に建てられた土蔵の礎石を支えた地固めのマツ杭が残存していた。

（金井 健）

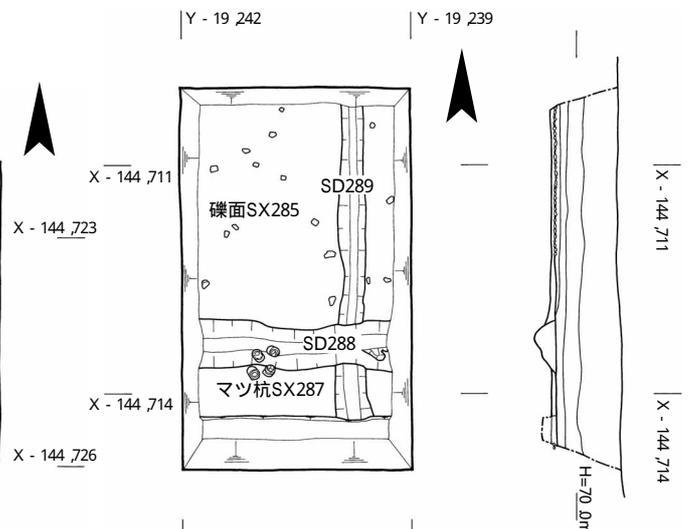


図174 第411次調査遺構平面図・東壁断面図 1:100